

汗で汚れた夏物衣料を扱うことが多くなる時期は、水洗いによる事故も多く発生する傾向にあります。
水洗いによる事故を防ぐには、その品物が水洗いできるかどうかの適切な判断が求められます。今回はその典型例を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

クリーニング
処理方法
に注意

素材
特性
に注意

衣類の状態

薄いピンク地に赤、黄緑、オレ
ンジ色などのドット柄のワンピース。
前身頃切り替え部から腹部に
かけてと、左脇部などの赤色の柄
付近がピンク色ににじんだようにな
っている。

たもの。

現品はレーヨンと絹を混用した
素材を使用しており、取扱表示は
家庭洗濯とウエットクリーニング
の両方が不可になっている。

事故の防止対策

取扱表示で水洗いを禁じている
製品を水洗いする場合は、利用者
からの依頼であつたとしても、あ
らかじめ水に対する染色堅ろう度を
チェックした上で処理の可否を判断
すること。特に濃淡の著しい色柄
製品については十分な注意が必要。

原因

利用者からの依頼で汗を除去
するために行ったウエットクリー
ニングによって、赤色の柄の染料
が溶け出し、にじんだようになって



薄ピンク色のワンピース

水を使用する場合の 配慮事項

汗の除去に部分的な水性処理や
ウエットクリーニングを選択する
場合には、染色堅ろう度のチェッ
クに加えて、次のような事項に配
慮を必要とする。

1. 水による弊害への配慮

洗たく物によっては、収縮、パッ
カリング（縫い目付近に細かなし
わが生じる現象）、移染、色泣き、
変退色、各種加工の脱落など、修
正不可能な状態に変化することが
ある。

このため、予備試験などによる
確認を厳重に行うとともに、水に
よる処理を行うことで想定される
不都合については、利用者の十分
な理解および了解を得てから処理
すること。

2. 環境への配慮

過去にテトラクロロエチレンに
よるドライクリーニングを実施し
たことが明らかな洗たく物は、テ
トラクロロエチレンが洗たく水中
に溶出して排出される可能性があ
るため、ウエットクリーニングを
避けること。

3. 素材別の配慮

- 毛は、湿潤状態で機械作用が加
わることでフェルト収縮するた
め、水洗いの対応がされていな
い製品に対しての機械力はでき
る限り小さくすること。
- 絹は、白化しやすいので特に湿
潤時の摩擦を極力抑えること。
- レーヨンは、乾燥時と比べて湿
潤状態での引っ張り強度が大き
く低下するため、過度の張力を
かけないこと。



拡大写真② 正常部の柄



拡大写真① にじんだ柄
赤色の柄の染料が溶け出し
にじんだようになっている

■品 名…ワンピース
■素 材…RAYON65%、SILK35%
■取扱表示…
■処理方法…中性洗剤によるウエットクリーニング、
加熱静置乾燥、ハンドアイロン仕上げ

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページから PDF をダウンロードいただけます。
全ク連 HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」